長谷川香料株式会社

証券コード：4958

中長期の経営方針及び中期経営計画

中長期の経営方針及び中期経営計画 2026

～ 利益成長・成長投資拡大と資本マネジメントの両輪による企業価値向上 ～

2026年11月26日

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

先ほどの決算説明では、足元の業績や各地域の進捗をご説明しましたが、ここからは、当社が今後どのような方向を目指し、どのように成長投資と資本政策を進めていくのか、中長期の視点でご説明したいと思います。

本日のテーマは、利益成長・成長投資の拡大と、資本マネジメントの両輪による企業価値向上でございます。

当社はこれまでも、事業そのものの成長にしっかりと取り組んでまいりました。

そのうえで今後は、成長投資を継続しながら、資本効率の改善にも正面から取り組み、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

本日の発表内容

01 変革への決意

02 強みと主要課題

03 中長期の経営方針：ROE10%の実現とロードマップ

04 P/L戦略・成長戦略

05 B/S戦略：適正資本と株主還元方針

06 キャッシュアロケーション

07 3つのコミットメント

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社
Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

本日の発表内容でございます。

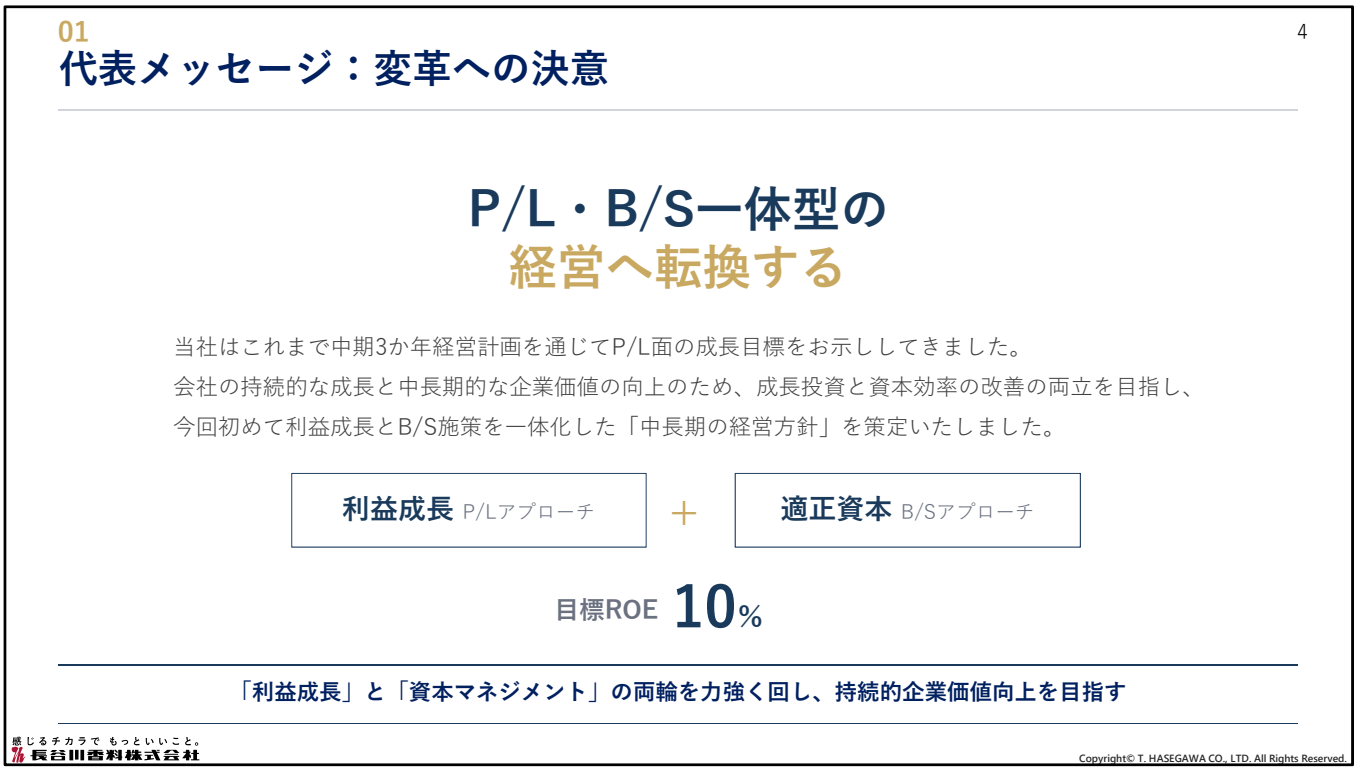
まず最初に、今回の方針策定にあたっての考え方をお示しいたします。

そのうえで、当社の強み、主要課題をご説明し、続いて、中長期の経営方針と ROE10%に向けたロードマップ、さらにP/L戦略・成長戦略、B/S戦略、キャッシュアロケーションへと進めてまいります。

最後に、当社としてのコミットメントをご説明いたします。

01 変革への決意

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.



まず、今回の方針策定にあたっての考え方をお伝えさせていただきます。

当社はこれまで、中期3か年経営計画を通じて、主にP/L面、つまり売上や利益の成長目標をお示ししてまいりました。

一方で、会社の持続的な成長と、中長期的な企業価値の向上を考えますと、利益を伸ばすことに加えて、資本をどう活用し、効率を高めていくか、これも極めて重要であると認識しております。

そこで今回初めて、利益成長というP/Lアプローチと、適正資本への移行というB/Sアプローチを一体化した「中長期の経営方針」を策定いたしました。

目標は、ROE10%の実現です。

「利益成長」と「資本マネジメント」の両輪をしっかり回し、持続的な企業価値向上につなげてまいります。

02 強みと主要課題

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

02

長谷川香料の強み

会社概要

- 創業 **1903年**
- フレーバーとフレグランスの開発・製造・販売
  - フレーバー売上高比率 **88.9%**
- 日本、米国、並びに中国、東南アジアを中心としたアジア地域に注力
  - 海外売上高比率 **51.6%**
- 2026年9月期売上高 **796億円**（前年同期比 +8.4%）

競争力の源泉と財務基盤

- 創香技術
- 提案力・対応力
- 多品種生産を支える人財・設備・研究開発・品質保証体制

競争力の源泉：収益性の高さ（営業利益率）
財務基盤　：財務バッファー（自己資本比率）

796億円	96億円	155億円	1,343億円	6.0%
連結売上高	営業利益	EBITDA	純資産	ROE

創香技術と堅固な財務基盤が、グローバル香料事業の持続的成長を支える

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

次に、あらためて当社の強みと事業概要についてご説明いたします。

当社は1903年創業で、フレーバーとフレグランスの開発・製造・販売を行っております。

日本を基盤としながら、米国、中国、そして東南アジアを中心に、海外展開を進めており、海外売上高は全体の半分を超えました。

当社の競争力の源泉は、長年培ってきた創香ノウハウや提案力・対応力、そして多品種生産に対応できる製造・品質保証・研究開発の人財と体制にあります。

また、将来の成長投資を支える財務基盤を有しており、今後は、この強みを活かしながら、単なる規模の拡大にとどまることなく、資本効率も意識した持続的な成長へと進化してまいりたいと考えております。

02

経営環境と主要課題

外部環境の変化

- 食の多様化・健康志向に伴う香料需要増大
- 原材料価格高騰およびサプライチェーンの複雑化
- 地政学リスク・為替変動リスクの増大

自社の課題（内部課題）：成長性と効率性の両立

- 各地域新工場等の大型設備投資の早期収益化
- 適正な資本規模へのコントロール、現預金の活用
- 成長投資と株主還元のバランス
- 資本効率（率）の向上と成長投資（額）拡大の両立

外部環境の成長機会を捉えつつ、資本効率の改善を着実に進めることが中長期的な企業価値向上の鍵となる

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社
Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

次に、経営環境の認識と主要課題でございます。

外部環境としては、グローバルで食の多様化や健康志向が進み、香料需要は拡大しております。

その一方で、原材料価格の高騰、サプライチェーンの複雑化、さらに地政学リスクなど、不確実性が高まっております。

こうした環境の中で、当社にとっての課題は、成長性と効率性を両立させることでございます。

各地域で進めている新工場や大型設備投資については、着実に収益化していく必要がございます。

また、資本をどのようにコントロールし適正規模にするか、成長投資と株主還元のバランスをどう最適化するか、これも重要なテーマでございます。

当社としては、資本効率の改善を、中長期的な企業価値の向上につなげること、これを重要課題と認識しております。

03 中長期の経営方針
～ROE10%の実現とロードマップ～

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

ROE10%の実現

P/Lアプローチ

利益成長の加速

- 大型投資の効果発現によるトップライン成長

  （売上CAGR **4.0%～4.5%**）
- 2031年9月期　EBITDA **190億円**
- 2035年9月期　EBITDA **230億円**

B/Sアプローチ

適正資本へ移行

- 純資産 **1,200億円**レベルへの適正化
- 機動的・継続的な自己株式取得
- 一時的な総還元性向＞**100%**

適正資本への移行によって、利益成長とB/Sマネジメントの両輪で持続的な企業価値向上を実現

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

こうした認識を踏まえた、中長期の経営方針がこちらになります。

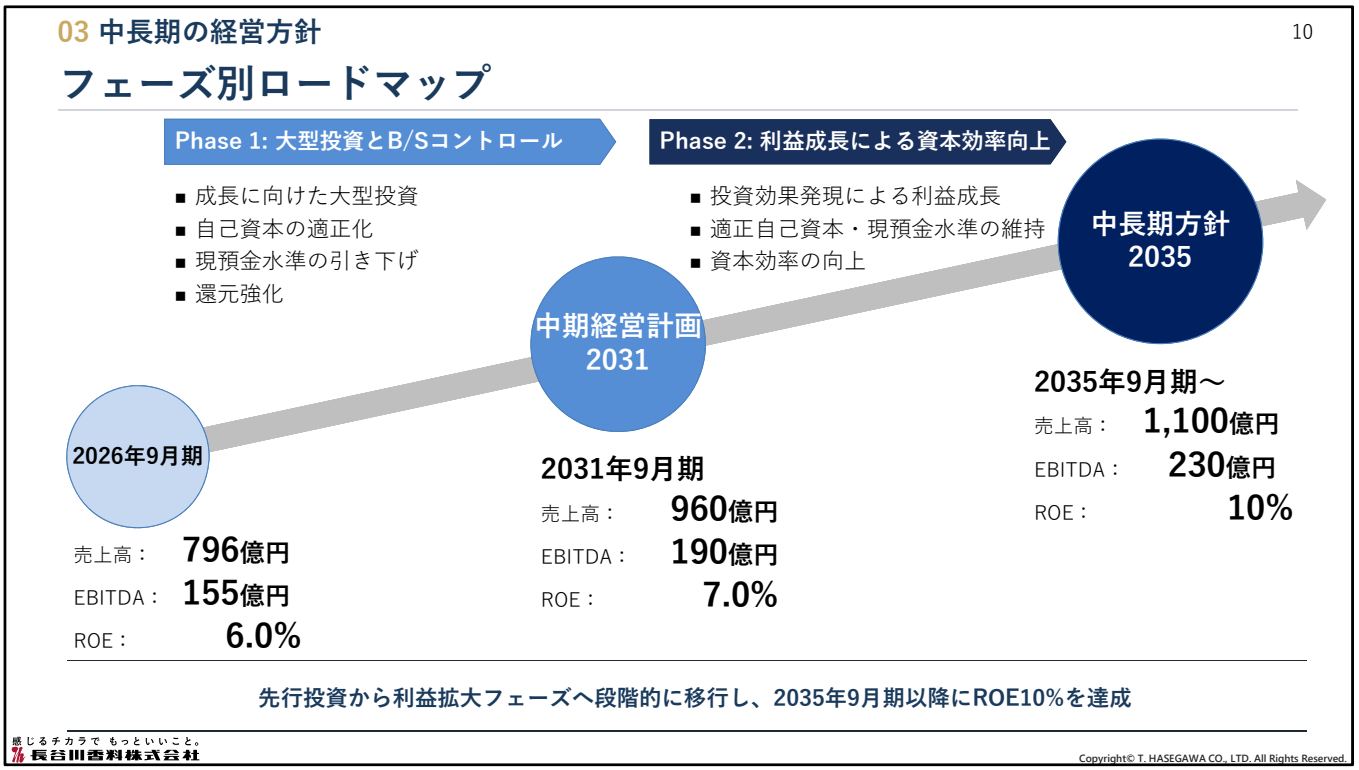
P/Lアプローチとしては、大型投資の効果発現によるトップライン成長を実現し、売上高の年平均成長率として4%から4.5%を目指してまいります。

利益指標としては、EBITDA を2031年9月期に190億円、さらには2035年9月期には230億円にすることを目指してまいります。
そのための成長投資をしっかりと実施いたします。

一方、B/Sアプローチとしては、自己資本の適正化を進め、純資産を1,200億円レベルへと移行していく考えです。

その手段として、機動的・継続的な自己株式取得も活用し、局面によっては一時的に総還元性向が100%を超えることも選択肢に入れております。

このように、利益成長と適正資本への移行を一体で進めることで、持続的な企業価値向上、すなわちROE10%の実現を目指してまいります。



次に、ROE10%に向けたフェーズ別のロードマップでございます。

2026年9月期を起点として、まずはフェーズ1として、2031年9月期までを「大型投資とB/Sコントロールのフェーズ」と位置づけます。

この期間は、中期5か年経営計画の期間として、成長に向けた大型投資を進めながら、自己資本の適正化、現預金水準の引き下げ、還元強化などを進めてまいります。

言い換えますと、利益を伸ばすための土台づくりと、資本効率改善の仕込みの期間でございます。

その後のフェーズ2として、2032年9月期から「利益成長による資本効率向上のフェーズ」に入ります。

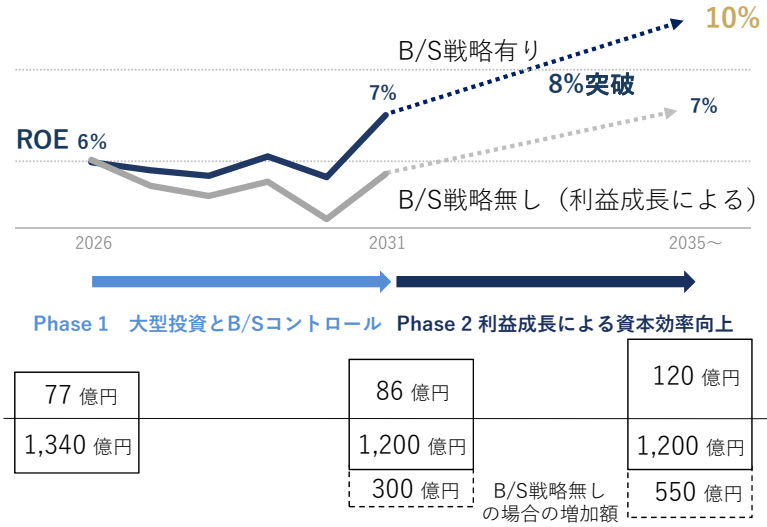
大型投資の効果が本格的に表れ、適正な自己資本・現預金水準を維持しながら、利益成長を通じてROEを引き上げてまいります。

そして、2035年9月期以降にROE10%の達成を目指してまいります。

ROEへの影響～B/S戦略の効果～

大型投資に伴う償却負担増により、
2030/9期までは純利益が停滞

【減価償却費増額】
2028/9期～　＋**約7億円/年**
・中国第3工場
・マレーシア新工場
2030/9期（予定）～　＋**約28億円/年**
・深谷工場
・DX推進・IT改革



継続的な自己資本規模のコントロールを通じ、利益成長と両輪で資本効率の向上を実現

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

次に、B/Sアプローチの必要性をROEの観点からお示ししております。
当社の健全な財務基盤は強みとなる一方で、今後の企業価値向上という観点では、資本の厚みを適切にコントロールしていくことも必要であると考えております。
仮に利益成長だけでROE向上を目指す場合、グレーのグラフのように7%まで改善するスピードはどうしても緩やかになります。
一方で、利益成長に加えて、B/S戦略を通じて自己資本を適正化していくことで、紺色のグラフのようにROE向上のスピードを高めることが可能になります。
まずフェーズ1では、還元強化により、自己資本の適正化を図ります。
この期間に、2027年9月期の中国第3工場とマレーシア新工場稼働に伴い、2028年9月期の償却負担が年間約7億円増加いたします。
さらに、2030年9月期から深谷工場の稼働、DX・IT投資の効果出現により、償却負担が年間約28億円増加いたします。
この影響から2030年9月期までは当期純利益が停滞する見込みで、利益面では一時的に重さが出る局面でございます。
大型投資のピークアウトは、5カ年目にあたる2031年9月期を想定しており、この期のROEは、7%を目指す水準となっております。
その先のフェーズ2では、各地域の大型投資の効果が本格化し、売上成長に加えて収益性も改善してまいります。
さらに、のれん償却の終了といった構造要因も加わることで、利益成長が加速し、ROEの引き上げにつながると考えております。
最終的には、純利益120億円、そしてROE10%の実現を目指してまいります。

04 P/L戦略・成長戦略

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

04 P/L戦略

13

利益の拡大ステップ

Phase 1

2029年9月期までに各地域で高い利益率を創出可能な**液体調合香料の生産量増加**を見込んだ投資が完了

- ～2031年9月期　EBITDA **190億円**

Phase 2

プロダクトミックス効果 ＋ DX/IT投資及びAI推進による人件費増の抑制

新領域開拓、戦略的買収・業務提携による**成長市場への投資**効果出現による利益創出

- 2035年9月期～ EBITDA **230億円**

＋のれん償却終了効果、政策保有株式の縮減効果

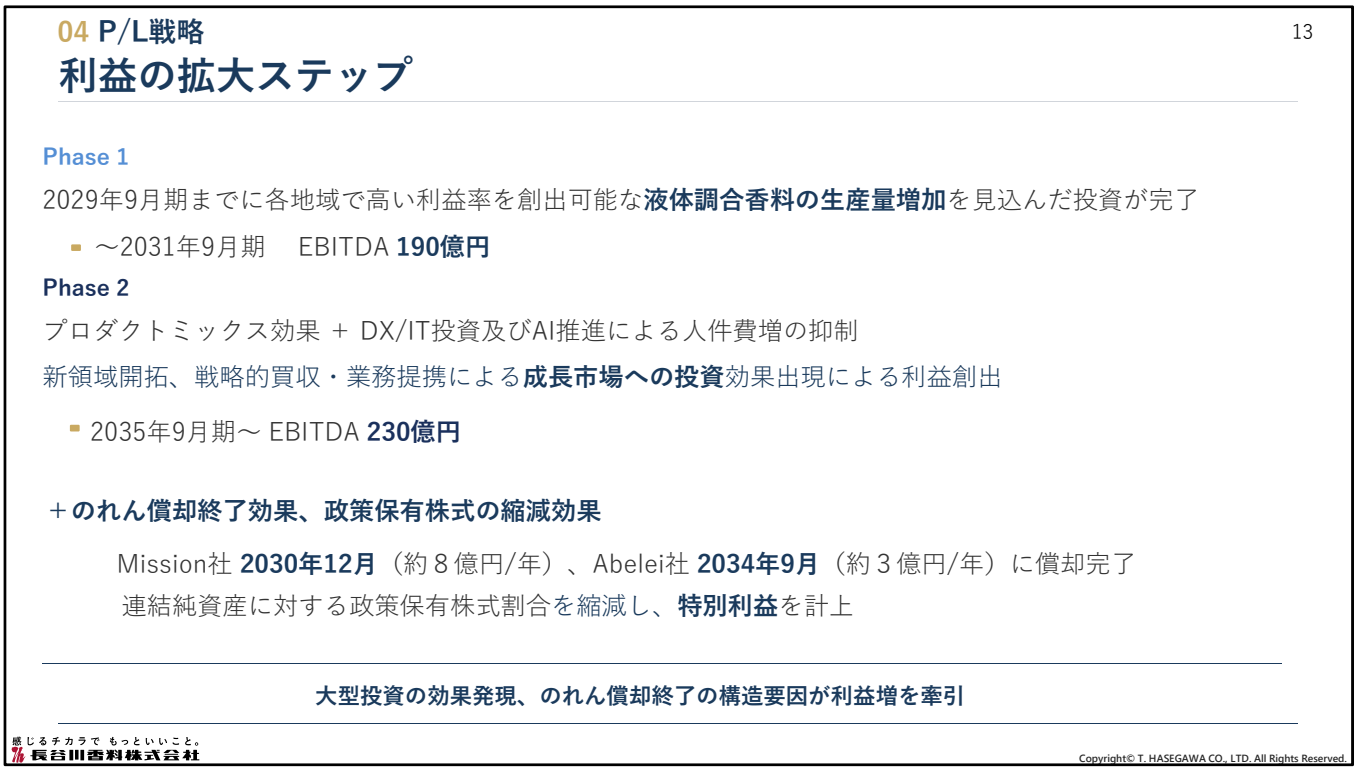
Mission社 **2030年12月**（約８億円/年）、Abelei社 **2034年9月**（約３億円/年）に償却完了

連結純資産に対する政策保有株式割合を縮減し、**特別利益**を計上

大型投資の効果発現、のれん償却終了の構造要因が利益増を牽引

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.



続いて、P/L戦略、つまり利益拡大のステップでございます。

まず営業利益の拡大ステップとしては、フェーズ１の2029年9月期までに中国、マレーシア、日本の各地で利益成長を牽引する液体調合香料の生産量増加を見込んだ投資が完了いたします。

これにより、調合香料の数量増による利益成長と、EBITDAの成長が見込まれる期間となります。

フェーズ２では深谷工場や海外拠点の新工場が稼働することで、生産能力の拡大に加え、プロダクトミックス効果による利益率の改善が見込まれます。

さらにDXやAI推進による生産効率の向上、そして人件費増の抑制による利益実現を見込んでおります。

加えて、のれん償却の終了効果や、政策保有株式の縮減効果も利益の増加を牽引すると考えております。

① 国内・海外

大型投資・成長投資の効果発現による売上成長（売上CAGR **4.0%～4.5%**）

国内市場

CAGR 3.0% 売上成長

深谷工場プロジェクト・DX/ITプロジェクト
による生産体制強化・自動化

研究・営業・生産の三位一体体制
未開拓分野、新規得意先の採用獲得
食品代替香料・素材など高付加価値提案を加速

マーケティング・AI活用・人財育成の継続的強化

海外市場

CAGR 5.0% 売上成長

米国：複数工場の生産再構築
Bridge to Tokyo（日本技術活用）

中国：平湖第３工場、蘇州新設備稼働（2027年9月期）
顧客対応力・生産効率を中国拠点全体で最適化

東南アジアに注力：CAGR 7.0%以上の売上成長

東南アジア：マレーシア新工場稼働（2027年9月期）
Hoang Anh社ベトナム市場成長に伴う売上拡大
東南アジア売上100億円の早期実現

⇒重点３地域で市場成長率を上回る売上成長を達成

国内は高付加価値提案を加速、海外は米国・中国・東南アジア施策で成長を牽引

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

次に、国内と海外それぞれの成長戦略についてご説明いたします。

まず国内でございます。

国内では、深谷工場プロジェクトやDXプロジェクトによる生産体制の強化、そして研究・営業・生産を軸に成長を図ってまいります。

営業面では、未開拓分野として業務用市場、新規得意先として新市場や西日本を中心に、採用獲得を進めてまいります。

また、食品代替香料や素材など、高付加価値提案をさらに加速してまいります。

次に海外でございます。

海外は、米国、中国、東南アジアを重点地域としております。

特に東南アジアは高い市場成長が期待される地域であり、マレーシア新工場の稼働と、ホアンアン社を含めたネットワーク強化により成長を加速し、東南アジアでの売上100億円の早期実現を目指してまいります。

② 成長投資

大型投資・成長投資の効果発現による売上成長（売上CAGR **4.0%～4.5%**）

M&A・業務提携：顧客網・技術・人財のシナジー重視の戦略投資、及び業務提携を組み合わせた機動的な成長投資

⇒「感じるチカラで　もっといいこと。」に基づく香料周辺領域・成長市場への機動的な成長投資

技術の棚卸と香料周辺領域・成長市場への成長投資

未開拓分野、食品代替・香料不使用

香りのコントロール（臭気抑制・マスキング・消臭）

マーケティング・合成・分析・官能評価のマネタイズ

香りによるブランディング

⇒　（2035年以降）120億円の当期純利益創出に向けて、利益成長を牽引する領域・市場への成長投資

香料周辺領域の探索と深化、戦略的M&A・業務提携で成長を加速

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

こちらは、成長投資の考え方でございます。

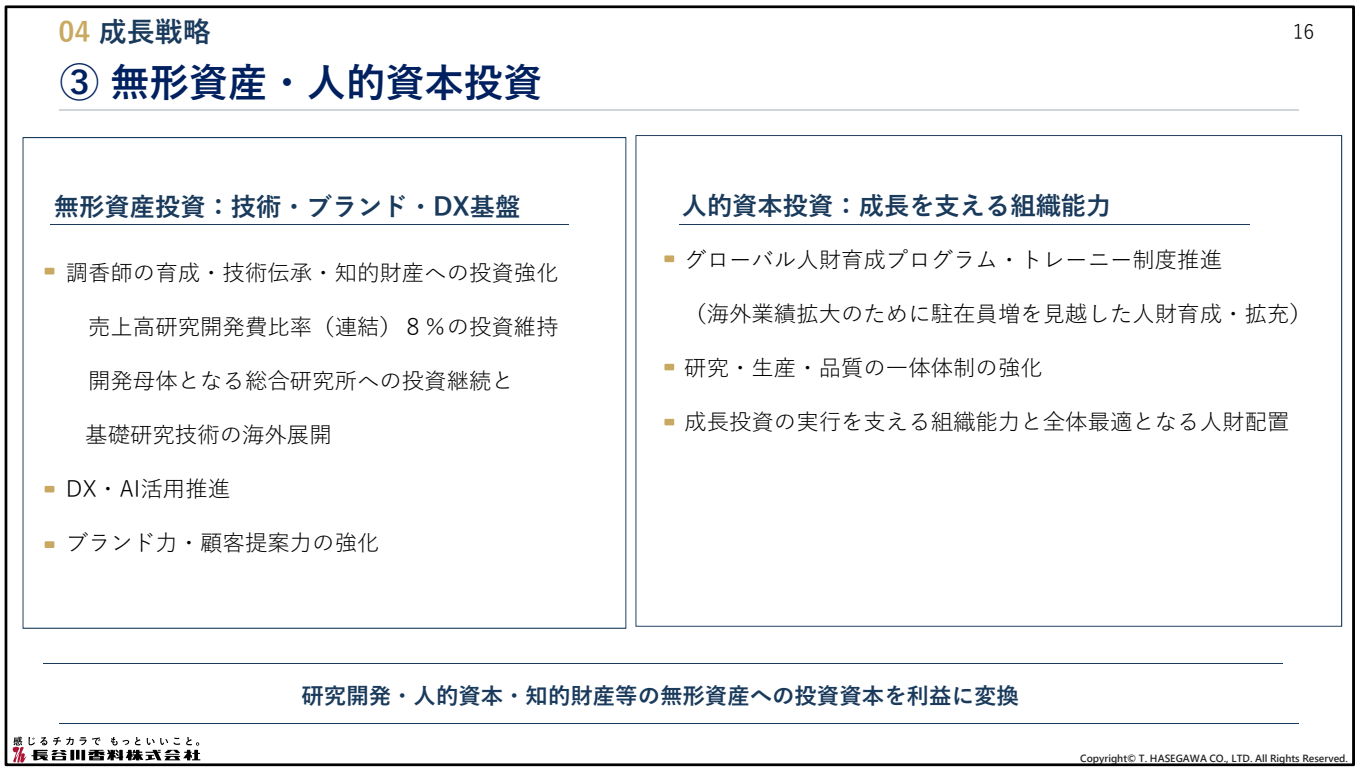
当社は今後、既存事業の拡大だけではなく、周辺領域の探索と深化にも取り組んでまいります。

そのうえで、戦略的M&Aや業務提携も組み合わせながら、成長を加速したいと考えております。

具体的には、食品代替や香りのコントロール、さらには保有技術のマネタイズなど、当社の技術や知見を活かせる香料周辺領域に機会があると見ております。

また、養殖魚、睡眠など、中長期的に新しい価値が期待できる分野についても探索を進めてまいります。

成長投資にあたっては、当社の理念に沿いながら、将来の利益成長を牽引する領域・市場に、機動的に資源を投下してまいります。



次に、無形資産・人的資本投資による収益性の強化です。

当社の事業は、人財、技術、ブランド、そして顧客提案力、これらが非常に重要です。

したがって、設備投資だけではなく、無形資産への投資が将来の競争力を左右すると考えております。

まず無形資産投資としては、調香師の育成、研究開発・知的財産への投資、DX・AI推進などを継続してまいります。

これらを通じて、品質・提案力を高め、付加価値を高めてまいります。

人的資本については、グローバル人財育成プログラムやトレーニー制度の推進、研究・営業・生産の一体体制の強化、そして多様な人財が力を発揮できる環境整備を進めてまいります。

これらの成長投資を着実に実行し、利益に変換するためには、組織能力の強化も欠かせないと考えております。

④ 資本の質の改善

① 事業の継続的な点検

- 地域別・カテゴリー別の収益性を定期的にレビューし、資本配分の優先順位に反映

② 遊休資産・非中核資産の圧縮

- 政策保有株式の縮減を継続、遊休資産・低稼働設備を点検し処分・転用を推進

③ 資本の循環による成長投資への再配分

- 資産圧縮で創出したキャッシュを、設備投資・研究開発・人的資本・知的財産等の無形資産、M&Aなど成長領域へ再投資する「資本の循環」を強化

資本の質を高める規律ある経営を土台に、創出したキャッシュを成長投資へ循環させる

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社
Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

続いて、資本の質の改善についてでございます。

当社は、単に資産を積み上げるのではなく、その質を高め、資本を循環させていくことが重要だと考えております。

地域別、カテゴリー別の収益性を定期的にレビューし、資本配分の優先順位に反映してまいります。

また、政策保有株式の縮減を継続するとともに、遊休資産や低稼働設備についても点検し、処分・転用を進めてまいります。

そうして生み出したキャッシュを成長領域へ再配分する。

この資本の循環を強化することで、企業価値向上につなげてまいります。

05 B/S戦略
～適正資本と株主還元方針～

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

適正資本と株主還元方針

① 配当の強化

安定的な利益還元を実施

DOE（株主資本配当率） を３%以上から**４%以上**に引き上げ（Phase 1 の期間中）

② 継続的な自己株買い

適正な自己資本水準への調整手段として、自己株式取得を**継続的かつ機動的に**実施

一時的に総還元性向＞100%も、発行済株式数の削減を通じ、EPS向上にも寄与

③ 資産効率と負債の活用余地

手元現預金水準を踏まえながら、段階的に借入活用

政策保有株式の縮減

利益成長に加え、適正資本水準に向けたB/Sマネジメントにより企業価値向上を実現

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

次に、B/S戦略、すなわち適正資本と株主還元方針でございます。

当社の考え方は大きく3点ございます。
1つ目は、配当の強化です。

株主還元については、安定的な利益還元を重視してまいります。
フェーズ1の期間中において、DOEを3%以上から4%以上へ引き上げる方向で考えております。

2つ目は、継続的かつ機動的な自己株式取得です。

適正な自己資本水準への調整手段として、自己株式の取得も実施してまいります。
局面によっては、総還元性向が一時的に100%を超えることもあり得ますが、こちらは発行済株式数の削減を通じて、EPS向上にも寄与する施策であると考えております。

3つ目は、資産効率の改善と負債の活用余地の確保です。

手元現預金水準を踏まえながら、必要に応じて有利子負債の活用も検討してまいります。

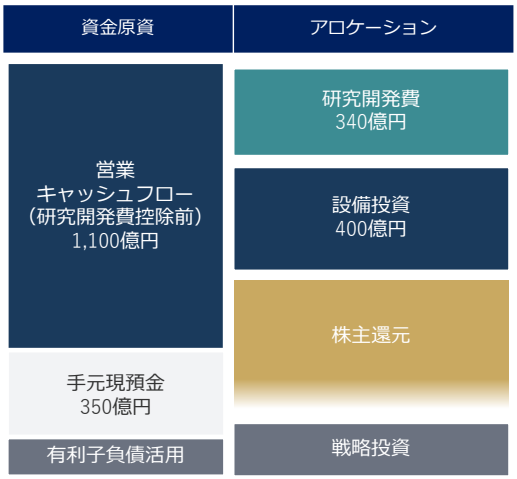
利益成長に加え、このようなB/Sマネジメントを進めることで、企業価値向上を実現してまいります。

06 キャッシュアロケーション

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

06

キャッシュアロケーション（5年累計）



財務方針

成長投資を経営資源配分の最優先事項に
ROE目標の実現に向けた適正資本水準を維持

成長投資	
R&D投資	売上高対比８％の投資を継続
設備投資	生産能力増強、生産効率化など利益成長に直結する投資を最優先
戦略投資	シナジー重視の戦略的買収や業務提携 [投資機会がない場合には株主還元]
株主還元と財務規律	
配当方針	安定的な配当を重視 DOE４％以上
自己株式取得	適正な自己資本水準への調整 継続的かつ機動的に実施
財務規律	有利子負債活用 [月商2か月の現預金を保持]

成長投資を最優先に株主還元増を実現し、財務健全性の維持と資本効率の向上を両立

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社
Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

次に、5年間累計のキャッシュアロケーションです。

資金原資としては、営業キャッシュフロー、手元現預金、さらに必要に応じた有利子負債活用を想定しております。

この約1,500億円の資金原資の配分につきましては、まず成長投資を最優先といたします。

研究開発費は、売上対比約８％を続けており、5年間で約340億円の投資を予定しております。
設備投資は、5年間総額400億円となりますが、生産能力増強、生産効率化など、利益成長に直結する投資を優先いたします。

戦略投資については、シナジーを重視したM&Aや業務提携を対象といたします。

一方で、株主還元についても、安定配当と継続的な自己株式取得の両面から、しっかりと対応してまいります。

財務方針については、ROE目標の実現に向けた適正資本水準を維持しながら、財務健全性とのバランスを取ってまいります。
成長投資を最優先にしつつ、株主還元と財務規律も両立させる、これが当社のキャッシュアロケーションの基本方針でございます。

07 ３つのコミットメント

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.



最後に、当社の3つのコミットメントと、今後の開示の考え方をお示しいたします。

1つ目は、ROE10%の実現です。

P/Lでは売上成長と成長投資、B/Sでは適正資本への移行、この両輪の相乗効果でROE10%を目指してまいります。

2つ目は、予見可能性の高い株主還元です。

DOE4%以上を維持し、継続的かつ機動的な自己株式の取得を実施することで、株主還元の考え方をより分かりやすくしてまいります。

3つ目は、透明性の高い情報開示です。

ROE、DOEなどについて、現状の数値から目標値までを分かりやすく開示し、フェーズ別ロードマップによって進捗を可視化してまいります。

また、今後は中期5か年経営計画を毎年ローリングで開示し、進捗や見直しについても透明性高くご説明してまいります。

利益成長・成長投資拡大と資本マネジメントの両輪による企業価値向上

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社
Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

以上、当社の中長期の経営方針と中期経営計画についてご説明いたしました。

当社は、これまで培ってきた技術力、人財、顧客基盤、そして財務基盤を活かしながら、今後は利益成長と資本マネジメントの両輪で、持続的な企業価値向上に取り組んでまいります。

引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

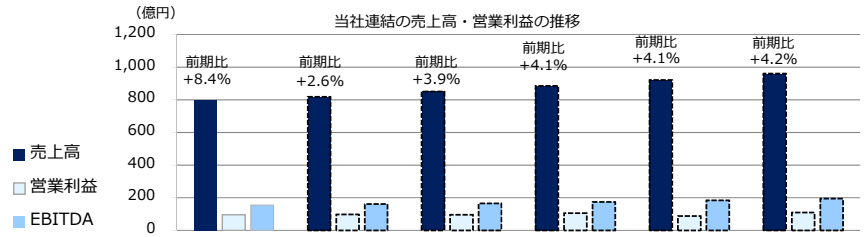
以上、簡単でございますが、説明を終了させていただきます。

ありがとうございました。

添付資料

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

中期5カ年計画（連結）



	26/9(実績)	27/9(計画)	28/9(計画)	29/9(計画)	30/9(計画)	31/9(計画)
売上高	79,696	81,800	85,000	88,500	92,100	96,000
売上原価	46,587	47,720	50,400	52,200	55,900	57,500
営業利益	9,633	9,800	9,600	10,500	8,800	10,900
経常利益	10,458	10,500	10,210	11,010	9,420	11,610
当期純利益	7,736	7,800	7,560	7,970	7,200	8,630
EBITDA	15,550	16,147	16,574	17,494	18,465	19,573
為替レート	¥157.44/$ ¥22.86/元	¥155.00/$ ¥22.50/元	¥155.00/$ ¥22.50/元	¥155.00/$ ¥22.50/元	¥155.00/$ ¥22.50/元	¥155.00/$ ¥22.50/元
売上高伸長率	8.4%	2.6%	3.9%	4.1%	4.1%	4.2%
売上原価率	58.5%	58.3%	59.3%	59.0%	60.7%	59.9%
売上高営業利益率	12.1%	12.0%	11.3%	11.9%	9.6%	11.4%
売上高経常利益率	13.1%	12.8%	12.0%	12.4%	10.2%	12.1%
売上高当期純利益率	9.7%	9.5%	8.9%	9.0%	7.8%	9.0%
売上高EBITDA比率	19.5%	19.7%	19.5%	19.8%	20.0%	20.4%
連結売上高に占める海外売上高の割合	51.6%	52.0%	52.7%	53.4%	54.1%	54.7%

（百万円）

※当社グループの中期5ヵ年計画は毎期洗い替え
※表中の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を指す

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

設備投資額・減価償却費・研究開発費

オーガニックな業績拡大のために５年間で約400億円の設備投資を計画

・大型設備投資

(億円)

	地域	～26/9期 (実績)	27/9 (計画)	28/9 (計画)	29/9 (計画)	30/9 (計画)	31/9 (計画)	5カ年計画 合計	投資 総額
DX推進・IT改革	単体	33	15	12	12	-	-	39	72
深谷工場	単体	9	64	18	48	3	-	133	142
米国第2工場	米国	39	-	-	-	-	-	-	39
中国第3工場	中国	30	33	-	-	-	-	33	63
マレーシア新工場	東南アジア	63	2	1	0	-	-	3	66
その他		-	54	35	36	34	33	192	
合計		-	168	66	96	37	33	401	

・研究開発費は連結売上高に対して8%の水準で推移

百万円

	26/9期 (実績)	27/9 (計画)	28/9 (計画)	29/9 (計画)	30/9 (計画)	31/9 (計画)	5カ年計画 合計
設備投資額	12,933	16,812	6,658	9,636	3,750	3,325	40,181
減価償却費	4,590	4,986	5,613	5,633	8,304	7,939	32,475
研究開発費	6,166	6,412	6,679	6,895	7,126	7,390	34,502

感じるチカラで もっといいこと。
長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.

本資料に掲載されている業績予想並びに将来予測などの事項は、
本資料作成時点において入手可能な情報により当社が合理的に判断した
予想であり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する場合がある
ことをご承知おき下さい。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の
欠落・誤謬につきましては、その責めを負いかねますのでご了承下さい。

本資料は、当社が作成したものであり、内容に関する一切の権利は
当社に帰属しています。複写及び無断転載はご遠慮下さい。

感じるチカラで もっといいこと。

長谷川香料株式会社

Copyright© T. HASEGAWA CO., LTD. All Rights Reserved.